NIE実践報告

1．タイトル：**ゴミと環境：自分の生活と環境を考える**

2．学校名

大阪府立枚方なぎさ高等学校

3．実践者名（代表者名）

片山徹

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

理科（学校設定科目）環境科学　16人

6．単元（本時の学習課題）名

ゴミと環境（廃プラごみ問題）

7．目標(狙い)

ゴミ問題特に廃プラゴミを中心に、近隣で建設中の処理工場の問題、学校所在地のゴミ分別問題など身近な問題も考える中で，ゴミと環境について考える。

8．評価の視点

ゴミと環境の関係について、科学的な知識を身につけると共に、自分自身の生活に関連する問題として、自分の行動や生活を考え直す事ができるようになったかどうか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

『ゴミと環境』(第1部)『ゴミとリサイクル』(第2部)(仮説実験授業研究会・授業書）6時間，環境省のCD-ROMのごみ問題　2時間，廃プラ　課題山積（新聞記事）1時間　合計9時間

10. 単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

『ゴミと環境』の内容：ゴミの量、紙を燃やすと、紙の原料，空気中の原子・分子、環境の中の分子
『ゴミとリサイクル』の内容：ゴミの中身、生ゴミのリサイクル、古紙リサイクル、空き缶と資源、アルミニウム缶製造に必要なエネルギー、プラスチックゴミの処理、プラスチックの分子構造、その他のゴミ
環境省のCD-ROMのごみ問題の内容：ゴミの種類から自分達のライフスタイルを見直す

（留意点）
『ゴミと環境』、『ゴミとリサイクル』、『環境省CD-ROM』の内容を復習しながら、科学的な面について再確認すると共に、実際全国各地での「廃プラゴミ処理問題」に関する新聞記事を読むことで、より自分たちや社会にとって考える問題である事が、生徒に実感できるようにする。また、学校のある地域での廃プラ処理工場の問題や、所在地のゴミの分別回収の問題、校内のゴミの分別問題などについても触れ、自分達の行動やライフスタイルの変化につながるよう指導する。

11. 児童・生徒の反応、感想・意見

本校は、エコハイスクールとして高校版EMS（環境マネジメントシステム）宣言校であり、環境委員会を中心に活動しているが、生徒の自覚については、まだまだ不十分な者もいる。今回の授業を通じて、より環境について考え，行動できるようになったというような感想・意見がかなりあった。

12. 成果と課題

生徒の科学的な環境理解やごみ問題の理解は、一定進んだと考えられるし、自分達のライフスタイルやゴミ分別などについても、変化があったので、授業の成果はある程度あったと考えられる。この授業の後で、新聞記者（科学部）に特別授業をお願いし、さらに環境について考えさせると共に、新聞への関心を高めるように試みた。これについても、生徒の感想などからは、新聞に対する関心の向上も認められるが、十分なものにはなっていない。さらに科学的な理解では、ダイオキシン問題などの難しい問題については、まだまだ不十分であった。これからも、多角的な観点をもって、新聞を利用した教育を進めたいと、考えている。